

J R 芸備線の状況等に関するヒアリング（第 2 回） 質疑応答要旨

日 時：令和 5 年 5 月 10 日（水） 14:00～15:15

場 所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅北口 ホール 3 B

出席者：別紙出席者名簿のとおり

< 質疑応答 >

（岡山県）

芸備線の区間別収支の 3 年平均（17～19 年度）内訳について、この 3 年平均の中には、西日本豪雨災害（平成 30 年 7 月豪雨災害）が発生した年が含まれている。単年度収支を確認すると、年度によって経費に大きなばらつきがある状況が確認できたので、この収支には災害対応のような特殊な経費が含まれているのではないかと考えている。

我々としては、J R の利用状況、経営状況を正確に把握するため、様々な材料をいただきたいと考えているので、平常時における費用と災害に係る費用とを分けてお示しいただきたい。

また、コロナが芸備線の収支にどのような影響を与えたのか確認したいので、2020 年度以降の収支状況もお示しいただきたい。

（J R 西日本）

2018・2019 年度は下深川～三次間においては 1 年以上運休した関係で、確かに特殊な状況であった。その他の区間も災害により運休が発生しているが、数年に一度の頻度で発生しているため、下深川・三次の区間以外は、そのような状況であることをご理解いただきたい。下深川・三次間は、バス代行等の経費が生じているが、一方、列車が走らなかったことにより、通常かかる費用がなくなったものもある。そのような仕分けは難しいところであるが、どのような示し方が相応しいかも含めて、検討していきたい。

2020 年度以降の収支の開示についても、検討していきたい。

（岡山県）

よろしく願います。

（広島県）

在来線（京阪神エリアを除く）の投資額に占める、J R 西日本が課題認識を持たれている輸送密度が 2,000 人未満の線区について、その内訳を教えてください。

（J R 西日本）

説明させていただいたビジュアルに示している収入と輸送人キロについては 17 路線 30 線区の個々の数字を出せるが、それぞれの投資額を算出するのは実務的に困難である。芸備線のみであれば可能であるのでそれで如何か。

（広島県）

我々としては、J R 西日本の会社全体として、事業の持続可能性を教えてくださいと考えているので、全体を見せていただきたい。

(J R西日本)

芸備線と弊社の鉄道事業全体がどうかということであれば、運輸収入や輸送人キロの割合を比べれば、概ねご理解いただけると思う。

(広島県)

J R西日本の2022年度期の決算では、純利益(連結)で885億円計上されている。当然、民間企業としての持続可能性も追求していくことはよく理解しているが、J R西日本社長が以前に会見で言われた「持続可能な輸送モード」を考えたときに、J R西日本がそのまま、(輸送モードを問わず)運行に関わることが、最も持続可能性が高いと考えるが、その点いかがお考えか。

(J R西日本)

持続可能な輸送について議論することは、まさに芸備線の交通体系のあり方の議論になる。持続可能性については、別の場で議論していきたいと考えている。

(広島県)

内部補助で維持することができないというのであれば、それがどうしてなのか、ということ、大臣指針も踏まえきちんと説明していただきたい、というのが地元の思いである。そのために、全路線の収支と内部補助の説明をお願いしている。

(J R西日本)

全路線の収支については、前回のヒアリングでもご回答しているが、芸備線の交通体系の議論になぜ必要であるのか、芸備線以外の個別の線区が黒字であるとしても、その数字をもって、芸備線でどのような議論を想定しているか教えていただきたい。

国鉄改革の目的は、後ほど国土交通省からご説明があると思うが、経営の自主性を確立して、しっかりと鉄道を再生させることだと認識している。その「鉄道の再生」は主に、鉄道特性を発揮できる路線についてしっかりと輸送サービスを向上させていく、国民の経済にしっかりと貢献していくことで、その上で大臣指針があって、遵守していくということであると思う。大臣指針で説明をしないといけないのは、廃止をする場合に、輸送需要の変化、環境の変化を十分に説明することである。

弊社の経営状況については、収入が元に戻らない見通しであること、長期債務を返還していかないといけないこと、投資は安全を含めしっかり実施する必要があることから、極めて厳しい状況であることをご説明しており、ご理解いただきたい。

(広島県)

我々の中で地域の公共交通を考えていく上で、利便性とコストの問題と持続可能性をバランスよく考えていく必要がある、その中でも持続可能性が最も大事なことだと思っている。持続可能性のためには、だれが日々の公共交通を担っていくのが最も持続可能性が高いのか、というところを引き続き議論させていただければと思っているので、その前提として、このヒアリングの場を借りて、我々が必要としている情報を求めているという次第である。

(JR西日本)

前回もご質問があったことは承知している。持続可能性について検討していくためにも、交通体系のあり方についての協議の場でしっかり議論をしていきたいと考える。

以 上